

(1) 特別課題研究

粘土瓦用低温焼成素地の開発(1/2)			NO. 12
低温焼成に適した素地の調合と物性評価 (1/1)			
研究機関／担当者		常滑窯業技術センター	担当者：深澤正芳、村瀬晴紀、松田喜樹
研究の概要	研究の内容	粘土瓦の低温焼成に利用可能と見込まれる材料（炭酸塩、珪酸塩等）を選定して原料を調合する。調合物については単純形状の金型を用いたプレス成形および押出成形試験により、簡易的に成形性の良否を確認する。成形体については焼成試験を行い、曲げ強さ、吸水率などの物性評価を行う。これにより、現状の粘土瓦に適用可能な低温焼成用の原料調合を見出す。	
	研究の目標	瓦の通常の焼成温度である1,130℃より50℃低い温度でも、曲げ強さ、吸水率などの物性値が1,130℃焼成と同等となるような低温焼成素地の開発を目指す。	
	備 考	〔県〕研究開発推進費	

(2) 経常研究

伝統技法を用いた現代的な常滑焼製品のデザイン開発(1/3)			NO. 17
伝統技法「彫り」を現代的にアレンジしたテーブルウェアのデザイン開発(1/1)			
研究機関／担当者	常滑窯業技術センター	担当者：山田 圭 長田貢一	
研究の概要	常滑産地には「彫り」、「のた絵」、「指頭紋」、など古来から伝わる伝統技法がいくつもあり、それらを利用した製品は非常に高価であり、製品価値が高い。しかし、伝統技法を用いた製品は伝統的な素地・形状・デザインであり、購入する消費者は限られるため、なかなか収入増に結びつきにくい。このため本研究では、伝統的な技法を用いながらもデザイン等を現代的な感覚にアレンジすることにより、購買層の拡大を狙う。		

汚泥焼却灰を用いた低温焼成素地の開発(1/1)			NO. 18
汚泥焼却灰を用いた低温焼成素地の開発(1/1)			
研究機関／担当者	常滑窯業技術センター	担当者：棚橋伸仁、永縄勇人、福原 徹	
研究の概要	全国的に下水道整備が進み、下水処理場から排出される汚泥焼却灰の量の増加が懸念されている。しかし、その有効な活用法が見つかっていない。したがって、汚泥焼却灰の用途開発を目的に、それを配合した外壁・舗装用タイル素地の開発を行う。汚泥焼却灰はリン酸成分を多く含有し、それにより素地の低温焼成が可能になると考えられる。地場のタイル焼成温度 1200℃より低い、1000～1150℃で焼成可能な素地を開発する。		